

「正しく人を愛する六原則」(3)
 出エジプト記 20章1～17節
 ～モーセの生涯(11)～

はじめに

今回は、モーセの生涯の11回目です。神は、神の民に十の戒めをお与えになりました。それは二つの部分に分けられていました。一部は「正しく神を礼拝する四原則」で、二部は「正しく人を愛する六原則」です。一部は神への礼拝、二部は人の道徳です。真の道徳は、真の礼拝から生まれるというのが、聖書の教えです。

今回は、二部の中から、「あなたは隣人に対し、偽りの証言をしてはならない」と、「あなたの隣人のものを欲しがってはならない」の二つを学びましょう。

1 あなたの隣人に対し、偽りの証言をしてはならない。

正しく人を愛する第五の原則は、「あなたの隣人に対し、偽りの証言をしてはならない」です。これは、人間の大切なコミュニケーションの一つである「ことば」についての戒めです。聖書は、「もし、ことばで過ちを犯さない人がいたら、その人は、からだ全体も制御できる完全な人です」と教えています(ヤコブ 3:2)。

(1) 偽りの証言の禁止。

使徒パウロは、エペソ教会への手紙で、「あなたがたは偽りを捨て、それぞれ隣人に対して真実を語りなさい」と教えました(4:25)。

私たちは嘘をつきやすいものです。自分を格好良く見せたい、その場を逃れたいなどから、嘘をつきます。聖書は偽りを捨てて、真実を語れと命じます。国会の承認喚問でも、誰が見ても嘘だと分かることを平気で語っています。

例話：オオカミと少年

イソップ物語に「オオカミと少年」という話があります。少年は羊を飼っていましたが、退屈なので、「オオカミが出た」と言って人々に助けを求めました。それを聞いた人たちが助けに来ましたが、それは嘘でした。少年が何回も嘘を繰り返し、そのたびに人々は助けに来ましたが嘘だとわかったので、本当にオオカミが出たとき

には、だれも助けに来てくれませんでした。

(2) 他人の名誉を傷つけず、正当に保つ。

ウエストミンスター小教理問答は、この戒めをこう解釈しています。「第九戒が求めていることは、人と人との間の真実と、また私たち自身や隣人の名声とを、保ち、高めること、特に証言するときに、そうすることです」。

人を尊敬する、悪口を言わない、自慢しないこともこの戒めは教えています。

(3) 日本の現状。

日本には「嘘も方便」ということわざがあります。「方便」とは、仏教用語で「知恵」という意味です。日本には聖書の教えがないのとこのような方便があるので、語ることに關してとても曖昧で、平気嘘をつくことがあります。

以前、姉齒建築士による「耐震偽装事件」がありましたが、その年には食品偽装が発覚し、雪印、マクドナルド、不二屋、白い恋人、赤福、かと吉など、一流企業が偽装していることが報じられ、その年を象徴することばが「偽り」であったことがありました。そして、今もそれは改まっていないのではないのでしょうか。

なぜそうなるのか。それは「人々の心に神に対する恐れがない」からです。

2. あなたの隣人のものを欲しがってはならない。

正しく人を愛する最後の原則は、「あなたの隣人のものを欲しがってはならない」です。これは人間の欲望に対する戒めです。

(1) 欲心は、アダムとエバを罪に導いた（創世記 3:6）。

エバがサタンに誘惑されたときのことが、聖書にこう記されています。「そこで女が見ると、その木は、まことに食べるのに良く、目に慕わしく、賢くするというその木はいかにも好ましかった。そこで女はその実を取って食べ、一緒にいた夫にも与えたので、夫も食べた」（3:6）

適用：欲そのものは罪ではありません。欲は、神から与えられ

たエネルギーといって良いでしょう。

食欲がなければ、物をおいしく食べられませんし、性欲がなければ、幸せな結婚生活も、子どもが生まれることもないでしょう。しかし、この欲が罪を生むのです。

聖書はこう教えています。「人が誘惑にあうのは、それぞれ自分の欲に引かれ誘われるからです。そして欲がはらんで罪を生み、罪が熟して死を生みます」(ヤコブ 1:14-15)。

聖書はまたこう教えています。「貪欲は偶像礼拝です」(コサイ 3:5)。多くの人は、石や木で造った偶像を拝んでいないかも知れません。が、お金や地位や名誉をむさぼっています。それがいつか罪を生むことになるのです。

例話：フィリピンのマルコス元大統領夫人が靴を 1000 足持っていたと報じられたことがありました。その直後に、菊名西教会の特別伝道集会においてになった阿部光子先生が「ムカデではあるまいし」とおっしゃったことが印象的でした。

(2) 神の備えと祝福。

神様は、私たちの必要をご存じて、それを備えていてくださいます。イエス様はこう言われました。「ですから、何を食べようか、何を飲もうか、何を着ようかと言って、心配しなくてよいのです。これらのものはすべて、異邦人が切に求めているものです。あなたがたにこれらのものすべてが必要であることは、あなたがたの天の父が知っておられます。まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます」(マタイ 6:31-33)。

(3) 神の備えと祝福に満足できない罪。

聖書はこう教えています。「金銭を愛する生活をせず、今持っているもので満足しなさい。主ご自身が『わたしは決してあなたを見放さず、あなたを捨てない』と言われるからです」(アブル 13:5)。

適用：私たちは神に感謝することを忘れてはいけません。聖書は「すべてのことにおいて感謝しなさい」と教えています(1テサロニケ 5:18)。感謝を忘れると、満足できずに、不平不満が出て来ます。

どうすれば、不平不満のない生活が出来るでしょう。それは、「わたしは決してあなたを見放さず、あなたを見捨

てない」と言われたイエス様を固く信じることです。私たちの目を目の前のことにではなく、イエス様に向けましょう。

結論

神様は、人が正しく人を愛する原則をお示しになりました。その第九戒は「偽りの証言をしてはならない」であり、第十戒は「あなたの隣人のものを欲しがってはならない」でした。真実を語り、神様が与えてくださるものに感謝して生きて行きましょう。

これまで、神様の十戒を学んで来ました。十戒は、神様に対する四つの戒めと、人に対する六つのお戒めが教えられています。そして、この順序が大切です。人の道徳（行い）は、神様への行いが土台になっていなければならないのです。神様への行いを無視すれば、人の行いは偽善となるでしょう。ですから、神様への礼拝をまず第一にすべきです。聖書はこう教えています。「神を愛し、その命令を守るときはいつでも、私たちは神の子どもたちを愛するのです」（Iヨハネ 5:2）。

私たちは、神様の戒めを完全には守れず、罪を犯します。しかし、失望する必要はありません。イエス様は、罪人を救うためにおいでになりました。そして、私たちの罪をその身に負い、私たちの罪のために十字架で死んでくださいました。そして、三日目に復活し、今は、私たちの救い主として生きていて、私たちを救ってくださるのです。

救われた今、私たちはこの戒めを守ることが出来るようにされています。この戒めを生活の基準として生きて行きましょう。

救い主として受け入れていない人への勧め。

あなたは、今日までイエス様を知らなかったかもしれませんが。しかし、イエス様はあたを知っておられます。今日、今、イエス様のもとに帰っていらっしやい。イエス様は、それを望んでおられます。

「見よ。わたしは、戸の外に立ってたたく。だれでも、わたしの声を聞いて戸を開けるなら、わたしは、彼のところに入って、彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする」

「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます」

「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである」